opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2012年5月)

オプス・デイ属人区長は、今 月の手紙において、「5月は 何よりも、聖母がいつも教会 を見守り、キリスト者一人るこ とりに付き添させる月です と述べている。

2012/05/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 五月の訪れは、いつも特別の喜びを 私たちにもたらします。復活節の喜 びに加えて、多くの国において、聖 母のために特に捧げられた月が始ま りました。母の存在を特別身近に感 じて喜びに満たされない子供がいる はずはありません。喜ぶのは当然な ことです。古代教会のある著作家が 言っています。聖母は聖エリザベト を訪問した際に、「その言葉によっ て (…)、従姉の内に、泉のように 湧き出る神の賜の泉を作り出しまし た。事実、〈恩恵に満ちた方〉が訪 れるところはどこでも、喜びに満た されるのです。」[i]

今日は再び、皆さんと共に喜びと感謝をもたらす五月の出来事をいくつか振り返ってみたいと思います。まず今日祝う労働者聖ヨセフの祝日は、仕事や日常生活の中で聖化と使徒職に励むべき私たちのような者にとって、本当のgaudium喜びをもたらしてくれます。この典礼上の祝日

が始まったときの創立者の喜びを思い出します。ある説教の中でこう書き残されました。「この祝日は仕まの神的価値を教会が公に認めたことを示しますが、同時に、神のお望したことの時代が特に黙想しない、福音書の中心にはないない、福音書の中心に示したことにもなるからです。」[ii]

労働者聖ヨセフの祝日は、聖なる太 相が長年携わっておられたように、 仕事を誠実に立派に果たすことがい かに価値あることかを忘れないよう にしてくれます。超自然的にも人間 的にも完全な仕事をすることが、す なわち、社会的にどう評価されるか とは無関係に、神に栄光を帰し、隣 人に仕えることを望んで働くこと が、不可欠な条件です。人間の仕事 の神的価値は、神への愛ゆえにそれ をしたかどうか、そして、最初から 最後まで仕える精神を持っていたか にかかっているという聖ホセマリア

の言葉を、何と度々耳にしたことでしょう。

この手紙を利用して、四日後に叙階 の秘跡を授けるオプス・デイ属人区 の35名の助祭のために祈りをお願い します。以前彼らは各々、市民社会 における仕事の分野で聖化と使徒職 の発展に努めていました。彼らのこ れからの言わば〈仕事〉とは、司祭 職であると言えるでしょう。一日 中、あがないのみ業を人々にもたら すために、限りない喜びを持って主 の道具として働く仕事です。彼らが 博学で聖なる司祭として、超自然的 スポーツマンの精神を持って喜んで 生きるよう祈りましょう。聖ホセマ リアが「まさしく司祭、100パーセ ント司祭 | [iii]になることを望んで いたからです。

私にとってのもう一つの喜びは、復活の主日の週に、アフリカと全世界の教会に多くの希望をもたらしてく

れる国であるカメルーンを司牧訪問 したことです。さらに、先日、ナバ ラ大学付属病院の50周年を祝うた め、パンプローナを訪れました。こ の50年の間に、数多くの医師や看護 師、管理運営のスタッフがキリスト 者としての精神で病人たちの世話に 当たりました。そして多くの患者が 癒され、十字架上のイエス・キリスト に固く一致して、苦しみを、中には その死をも神に捧げることを学びま した。私と共に神に深い感謝を捧げ るようお願いします。オプス・デイ 創立当初に限らずそれ以前から、病 人に対して持っておられた聖ホセマ リアの心遣いが、その個人的な熱意 で推進されたこの大計画によって実 を結んだからです。同じようにし て、長年の間に多くの国々でこれと 似た計画が実現されてきました。

しかし、子どもたちよ、5月は何よりも、聖母がいつも教会を見守り、 キリスト者一人ひとりに付き添って おられることを思い起こさせる月です。当然なことですが、これからの日々、霊的生活にも使徒職にも豊かな実りがもたらされるよう努めましょう。

まず、とても愛されている聖母信心 である、5月の巡礼について考えよ うと思います。明日2日は、聖ホセ マリアが、1935年に二人の息子たち とソンソーレスの聖母巡礼地を訪問 して、オプス・デイにおけるこの習 慣を始めた記念日です。それ以来、 創立者の足跡に従って、数限りない 聖母の小聖堂や巡礼地への巡礼がな されたことでしょう。私たちの巡礼 が、創立者と同じ聖母への信頼と使 徒職の熱意に満ち、潜心したものと なるよう、創立者に助けを求めま しょう。そして、聖母への子として の愛情を表明する私たちに同伴して もらうために、友達や同僚、親戚な どを巡礼に誘いましょう。

今月半ばには、ファチマの聖母の祝 日と、1970年のグアダルーペのマリ ア様に対する聖ホセマリアのノベナ (九日間の祈り)を記念します。こ の二つの思い出を祝うことで、私た ちは、念祷の時間を大切にし、口 祷、特に聖母が三人の牧童に願われ たロザリオの祈りを熱心に唱えるよ う促されます。使徒職のための聖な る野心を燃やし、教会と教皇のこと をマリア様にお願いすることです。 今、準備中の〈信仰年〉の実りのた め、また全世界におけるキリスト教 的生活の再興のために祈りましょ う。

今年の17日は主のご昇天の祭日に当たります(訳注:日本では20日)が、創立者の列福20周年記念日でもあります。この日、福者ヨハネ・パウロ二世と愛するドン・アルバロと共に、溢れんばかりの恵みを享受したことは、何と素晴らしい思い出でしょう。神に感謝し、オプス・デイ

創立のため神がお選びになった忠実 な道具の模範に倣う熱意を燃え立た せる絶好の機会です。

数週間前、ベネディクト十六世は、 聖母が使徒たちと聖なる婦人たちと ともに、エルサレムの最後の晩餐の 高間で聖霊降臨を待っておられたこ とを考察して、こう述べておられま す。「イエスの地上の生涯はマリア とともに始まります。そして教会の 最初の歩みもマリアとともに始まります。」[iv] 神は御子が聖母の汚れをご胎内で人となられることで出ていていまります。ではないました。そうになりました。そうにはいるではないではないではないではないである。にはいるです。 最初の歩みもマリアとともに始まりれることを主ご胎内でした。そうれた御子としてはいまります。 本ではいるの母といるの弟子たちの来もしまいではいて集まってがあるようにはのたまものが与られたといるといる。 「v]祈り求めておられたのです。

教皇様は指摘されます。「主の昇天 の後、神の母が11人の弟子とともに いたことは、単なる過去の出意の出 歴史的な記録ではなく、深い 要約しています。すなわち、 要約しています。すわめて は弟子たちと、まわめて と、まりイエスについ 記憶を、祈りの 記憶を、イエスの現存を保 になる。 では、イエスの現存を保

## つという使命を共有するのです。」 [vi]

主のご昇天から聖霊降臨までの間、 弟子たちが、イエスの御母のおそば 近くで、聖母が心に留めておられた 多くの思い出を信心深く生き生きと お話しになるのを聞いていたことが 容易に想像できます。聖母は、お告 げからベツレヘムでのご降誕までの こと、ヘロデの迫害による波乱多き 月日からナザレでの什事の日々に至 るまでのこと、主が、公生活中、宣 教と奇跡を通して働かれた穏やかな 日々からご受難とご死去と埋葬に至 るまでのこと、そして訪れたご復活 の喜び、ユダヤやガリラヤでの度々 のご出現、神なる師の最後の指図な どについて、話されたことでしょ う。聖霊は、マリアが寄与した大い なる貢献に導かれて、使徒と他の弟 子たちが聖霊を十全に受けることが できるように整えていったのです。

子供たちよ、エルサレムの高間は何 と素晴らしい学び舎でしょう。聖マ リアがこの上もない先生を務める祈 りの学び舎です。創立者は「祈りの 師」[vii]、「隠れて目立たぬ犠牲の 〈師〉|「viii]と言っておられまし た。そこで聖母は、聖霊のささやき かけに耳を傾けておられます。そし て、最初の弟子たちに、祈りのうち に潜心して神のみことばを聞くよう に教えられます。「教会の中でイエ スの母を崇敬するとは、祈る共同体 となることをマリアから学ぶことで す。祈る共同体であるということこ そ、使徒言行録に示された、キリス ト教共同体に関する最初の記述の本 質的な点の一つです(使徒言行録 2・42参照)。しばしば祈りは、困 難な状況や個人的な問題で占められ ます。私たちはこうした問題に促さ れて、主に向かって光と慰めと助け を求めます。マリアは私たちを招き ます。祈りの次元を広げなさい。 困っているときだけ、また自分自身

のためだけでなく、一致と堅忍と忠 実のうちに、『心も思いも一つにし て』(使徒言行録4・32参照)神に 向かいなさいと。」[ix]

聖母が、その忠実な子供になりたい と望む人に託される使命は、緊急時 や困難な状況に立たされたときだけ ではなく、いつも思いを神に向ける よう人々に教えることです。「ある 人にとっては聞きなれたこと、また 他の人にとっては初めて耳にするこ とかも知れません。が、いずれにし ろ、誰にとっても困難なことです。 しかし私は、命ある限り休みなく説 き続けるつもりです。あらゆると き、あらゆる場所においていつも祈 りの人であることがまず第一に必要 であると。神がご自分から私たちを お見捨てになるようなことは決して ないからです。神と親しくすること について、進退きわまったときのみ 神の助けを求めるなどというのはキ リスト者の態度ではありません。愛

する人のことを忘れたり軽く考えたりするのがまともな人だと思いますか。とんでもない。私たちの言葉や望みや思いは絶えず愛する人々に向かい、あたかもいつもその人が傍らにいるかのように感じます。神との付き合いにおいても同じことが起こるのです。」[x]

聖母はいつもこのように振舞われま した。「カルワリオの十字架の傍ら で祈っておられる。マリアのこの熊 度はここに始まったことではありま せん。いつもこのように祈ってこら れました。家事に専念し、義務を果 たしつつ、この世の雑事に取り囲ま れながら、常に思いを神に向けてお られたのです。 (…) キリストは、 私たちが、熱心に、絶えず神の愛を 見つめることのできるように、非常 に優れた御方、恩寵に満ち満てる御 母の力を借りることを望んでおられ ます。| [xi]

天国で霊魂と体ともども栄光のうち にお過ごしの聖母は、今、私たち一 人ひとりをそば近くで見守り、イエ スが聖ヨハネに向かって「婦人よ、 ご覧なさい、あなたの子です | [xii] と仰せになったことを文字通り受け 入れ、母としての責任を果たし続け ておられます。ベネディクト十六世 が勧めておられます。「私たちの個 人として、また教会としての生活の すべての歩みを、人生の最後の旅立 ちも含めて、この方にゆだねようで はありませんか。マリアは私たちに 祈りの必要性を教えてくださいま す。そして私たちにこう教えられま す。あなたがたは、御子と絶えるこ とのない深く完全な愛のきずなをも つことによって初めて、勇気をもっ て〈自分の家〉すなわち自我から脱 け出ることができます。そこから、 世の果てにまで行って、あらゆると ころで、世の救い主、主イエスをの べ伝えることができるようになるの です。| [xiii]

創立者が繰り返しておられたよう に、アヴェ・マリアの祈りの

「Dominus tecum主はあなたと共におられます」を、信心を込めて唱えているでしょうか。聖母に聖霊の賜とその実りを活用できるよう、執拗に助けを願っているでしょうか。

私の意向に固く一致し続けてください。それは、教会のため、教皇のため、司祭と修道者のため、そして全信者のため、熱心に祈ることに要約されます。聖母を通して聖霊に、全ての司牧者と信徒のうちに、神の聖なるみ旨をあらゆるときに果たす熱意を燃え立たせてくださるように願いましょう。

近々、行く予定であるスロバキアへの旅行に同伴してください。彼の地においてもオプス・デイの精神がますます広まり、あらゆる環境で教会への愛と、日常生活を聖化し聖性を求める望みが根付くようになるため

です。1968年、あの国において、共産主義からの解放の未遂事件が起こったとき、創立者がどれほど熱心に執拗に祈られたか想像もつかないでしょう。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2012年5月1日

[<u>i</u>] 偽グレゴリウス・タウマトゥルゴ、説教II、お告げについて。

[ii] 聖ホセマリア、『知識の香』52。

[iii] 聖ホセマリア、1973年4月13日 説教『永遠の司祭』。

[iv] ベネディクト十六世、2012年3 月14日一般謁見の講話。 [v] 第二バチカン公会議、『教会憲章』59。

[vi] ベネディクト十六世、2012年3 月14日一般謁見の講話。

[vii] 聖ホセマリア、『道』502。

[viii] 同上509。

[ix] ベネディクト十六世、2012年3 月14日一般謁見

<u>[x]</u> 聖ホセマリア、『神の朋友』 247。

[xi] 同上241。

[xii] ヨハネ19,26。

[xiii] ベネディクト十六世、2012年3 月14日一般謁見の講話。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2012nian-5yue/ (2025/12/16)